



クロアチア共和国とホストタウン十日町市との交流

Since2002～



クロアチア共和国とは

クロアチア共和国は、東ヨーロッパのバルカン半島に位置し、地中海の一つであるアドリア海に面しています。イタリアとは、アドリア海を挟んだお隣さんです。面積は北海道の7割ほどで、人口は約420万人。旧ユーゴスラビアから1991年に独立、1995年まで内戦紛争が続きました。

首都のザグレブは、海沿いから少し離れた内陸の北部にあり、7月の平均気温が約25℃、1月の平均気温が約0℃と、日本と同様に四季がはっきりとした都市です。

クロアチアには7つの世界遺産があり、中世の街並みが今も残るドブロヴニク市街地や、大小16の湖と92の滝から成るプリトヴィツェ湖群国立公園は、世界有数の観光地です。

日本のスタジオジブリが描く「魔女の宅急便」や「紅の豚」の街並みは、ドブロヴニク旧市街から着想を得ています。また、クロアチアはアドリア海でのクロマグロの養殖やワインの名産地として有名です。

歴史豊かなクロアチアには、伝統的な衣服・料理・お祭りが多くあります。皆さんは、世界中で最も身につけられている装飾品をご存知ですか？ それは、クロアチア発祥のネクタイです。

FIFAワールドカップ2018フランス大会を終えた今、クロアチアのスポーツ選手といえば、世界の準優勝を獲得したサッカークロアチア代表チームや、UEFA欧州最優秀選手賞・FIFA最優秀選手賞・バルドールを獲得したルカ・モドリッチが思い浮かぶでしょう。

旅先ではクロアチア語で挨拶をしてみましょう。「こんにちは」は、「ドバル・ダン」です。「おはよう」は「ドプロ・ユートロ」、「ありがとう」は「フヴァラ」、自分の名前を伝えるときは、「ゾヴェム・セ・○○○」です。

クロアチア共和国と十日町市の交流

FIFAワールドカップ2002日韓大会の事前キャンプ地として、クロアチア代表チームを受け入れたことから交流がスタートしました。キャンプが行われた当間多目的グラウンドを「クロアチアピッチ」と名づけ、以降、駐日クロアチア共和国大使館関係者の方からご出席をいただきながら、「クロアチアカップサッカーフェスティバル」と銘打ったサッカー大会が開催され続けるなど、17年間に渡り交流を深めてきました。

元駐日クロアチア共和国大使ドラゴ・シュタンブク氏は、「十日町市は、日本とクロアチアの友好の真の中心地である。十日町市民ほど、こよなく我が祖国を愛してくれる人々に私は出会ったことがない。」と、話してくれました。また、ドラゴ・シュタンブク氏のご紹介で、クロアチアの著名な建築家から友好の証としてクラブハウスの設計デザインを提供いただき、2012年7月に「ジャパン・クロアチア フレンドシップハウス」が完成しました。

ホストタウンとは

国は、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催に向け、スポーツ立国・グローバル化の推進・地域の活性化・観光振興等に資する観点から、参加国及び地域との人的・経済的・文化的な相互交流を図る地方公共団体を「ホストタウン」として全国各地に広げています。

十日町市は、2016年1月26日にホストタウンの第一次登録・認定を受け、今年で4年目。2019年4月26日現在、第13次登録後において、全国323件が登録され、390の自治体と126の国・地域につながっています。

十日町市が目指すもの

クロアチア共和国各競技代表のオリンピック・パラリンピアンが、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会において最高のパフォーマンスを発揮できるよう、市民をあげた、おもてなし・応援支援体制の構築を進めていきます。

そして、「クロアチアホストタウン十日町市」として、2020年をゴールではなく、ひとつの通過点と位置付け、これまでのクロアチア共和国との交流の歴史が作り上げた有形・無形のレガシー（遺産）を大切に継承し、次次のジェネレーションへと国際交流の役割を繋いでいくことで、未来永劫、有効関係を深めていきます。



事前キャンプを行ったグラウンドを「クロアチアピッチ」と命名

FIFAワールドカップ2002日韓大会の事前キャンプ実施
2002

2020年7月、東京2020オリンピック・パラリンピック 競技大会の事前キャンプ開催

2020

2019年8月～9月、東京2020オリンピックテストイベントの事前キャンプ開催

2019



2018年11月13日～16日、クロアチア共和国各競技連盟代表団の来市視察を招聘
(柔道・テコンドー・陸上競技・自転車競技・射撃)



2018年10月10日、クロアチア共和国空手道連盟代表団の来市視察を招聘

クロアチア映画の上映会を開催

FIFAワールドカップ2018ロシア大会に際し、クロアチアと日本の両国間で相互応援企画を実施（十日町市から、折りを込めた千羽鶴と応援の手紙を送り、クロアチアからは、折り紙のアイリスと日本語で録音された応援曲をいただいた）
FIFAワールドカップ2018ロシア大会に出場した、サッカークロアチア代表チームの応援イベント（予選リーグから決勝戦まで）

2018年3月、ユネスコ無形文化財である、クロアチアの伝統的なアカベラ男声合唱「クラバ」の初来日コンサート

十日町市内の様々なイベント・祭りに併せ、クロアチアPRブースを開設



クロアチアに親しむ授業や生徒との交流を実施（2016年～）講師：ブラジェンカ・フラスティッチ 駐日クロアチア大使夫人

学校給食関係者のためのクロアチア伝統料理教室の開講（2016年～）講師：ブラジェンカ・フラスティッチ 駐日クロアチア大使夫人



サッカーU-17クロアチア代表チームが、国際ユースサッカー大会in新潟に向け、十日町市で事前キャンプを実施（2003年～ 延べ5回）



2012年7月に「ジャパン・クロアチアフレンドシップハウス」が完成



2018年11月27日、クロアチア共和国オリンピック委員会ズラトコ・マテヤ委員長の来市視察招聘
(クロアチア共和国十日町市事前キャンプ実施に関する協定書の締結)



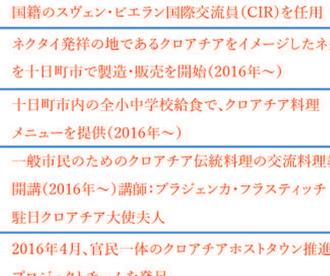
2018年9月25日～10月14日、クロアチアアーティストの絵画展を開催



2018年9月20日、クロアチア共和国オリンピック委員会代表団の来市視察を招聘



2017年10月、クロアチア共和国スポーツ庁長官ヤニツァ・コストリッチ氏の来日・来市視察を招聘



2017年8月、友好親善の架け橋として、日本初、クロアチア国籍のスヴェン・ビエラン国際交流員(CIR)を任用

ネクタイ発祥の地であるクロアチアをイメージしたネクタイを十日町市で製造・販売を開始（2016年～）

十日町市内の全小中学校給食で、クロアチア料理メニューを提供（2016年～）

一般市民のためのクロアチア伝統料理の交流料理教室の開講（2016年～）講師：ブラジェンカ・フラスティッチ 駐日クロアチア大使夫人

2016年4月、官民一体のクロアチアホストタウン推進事業プロジェクトチームを発足

2016年1月26日、クロアチア共和国を相手国とし、十日町市がホストタウンの第一次登録・認定を受ける



2020年オリンピック・パラリンピック競技大会の東京開催決定を受け、2015年に十日町市長がクロアチアオリンピック委員会を訪問



2012
クロアチアピッチを会場に「クロアチアカップサッカーフェスティバル」を毎年開催（2003年～）